

## 5月の植物（きのこ編）

### オオゴムタケ ピロネマキン科トリカレウリナ属

（学名： *Trichaleurina tenuispora* Carbone, Wang et Huang ）

オオゴムタケは、初夏から秋にかけて朽ちた倒木や枯れ枝に発生する腐生菌です。オオゴムタケが生える枯れ木はなぜか炭のように真っ黒になります。子実体の大きさは直径4～7cm程度と手のひらに乗るくらいのサイズですが、子のう菌類のなかではかなり大型の部類です。内側の平らな部分に子実層を形成し、ここに何らかの刺激が加わると胞子を噴出します。外側には短い毛（綿毛状の菌糸）が密生しフェルトのような肌ざわりです。

佐賀県では、2018年4月28日に上峰町の鎮西山、同年5月8日に上峰町内の雑木林、2020年5月20日に伊万里市東山代町で分布を確認しました。また、時期は定かではありませんが、佐賀市富士町の21世紀県民の森でも確認されています（貞松・小宮, 2006）。

このような毛むくじゃらの見た目からは想像しづらいのですが、中身はゼラチン質の肉厚な層になっていて、ゴムのような弾力があります。そして、そのゼリー状の部分は食べることができます。皮を剥いてさっと湯通しして、きな粉をまぶしたり蜂蜜をかけたりすると、わらび餅のような和スイーツとして楽しめますよ～。

（写真・文：鶴田めぐみ）



▲2018年5月8日 三養基郡上峰町にて撮影

【参考】保坂健太郎 監修・執筆『小学館の図鑑 NEO 22 きのこと[改訂版]』（2017年）